



みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



今月のひと

おにぎり茶屋 ちかちゃんの
店主と仲間たち

地産米のおにぎりが看板商品 地域の仲間と働ける場、再び

七郷産の米を使ったおにぎりが評判の「おにぎり茶屋 ちかちゃん」。十人いるスタッフの多くは神屋敷の方々に、地域産のみそをつくる「神屋敷仕込み味噌クラブ」の仲間たちです。震災後、地域のほとんどの家屋が全壊し、みそづくりの加工場も被害を受け、働く場を失いました。しかし、クラブの代表、佐々木千賀子さん(写真左端)の「また皆で一緒に働ける場所がほしい」との思いに、仲間たちも賛同し、構想から約二年をかけ、今年五月、蒲町交差点近くに新たに飲食店をオープンしました。母体は千賀子さんの夫、均さんが代表を務める農事組合法人「仙台イーストコントリー」。均さんは「美味しい地元の米を知ってもらうためのアンテナショップになれば」と願っています。

「運営に関しては皆で意見やアイデアを出し合っています。今は、ランチメニューに米粉を使った麺を出そうと試行錯誤しているんですよ。皆が元気になれるようなお店にしたいですね。お客さんの癒しの場であり、スタッフの生きがいになつてほしいと思います」。ちかちゃん

んは大切な仲間とともに、今日も元気に営業しています。

2013
8月

生き返った田んぼと俺

佐藤 善男さん(荒浜)

今年5月、仙台東部道路の東側、神屋敷にある佐藤善男さんの水田では、3年ぶりの田植えが行われました。佐藤さんは、田植え初体験の学生から「善男先生」と呼ばれて、照れながらもいとおしそうに苗を植えていました。↘



「昔から俺はね、作物と会話しながら農業しているんです。気持ちを込めれば通じます」と語る佐藤さん。その温かな表情とは違って、頑固な農家の顔を持っていました。「今年の稲作は、どうなるかわガンネエ。土も違って、天候や病害虫も悪さを。誰かがしてくれるのを待つんじゃなくて、自分が動くことでしか対応できないよ」。目を細めてうれしそうに田んぼを眺めつつ、ぴりっと神経を張り詰める瞬間は、まるで田んぼと共に、佐藤さんまでが農家として生き返ったようでした。



畑作では負けられない

大友 幸夫さん(井土)

「どうですか、旨そうなレタスでしょう」と目の前に広がったピカピカに輝くレタスを指差して「確かに今年から沿岸部の作付けは増えたけど、それだけで喜ぶほど単純ではないんですよ」と語るのは、井土で兼業農家を営む大友幸夫さんです。

会社員でもある大友さんですが、早朝から畑作業をして出勤し、仕事が終われば畑に戻る毎日です。「兼業農家だからって、畑仕事をおろそかにはできません。私が会社に行っている間は、家内が野菜の世話をしています」と話すように、夫婦で農作業を分担し、少しでも品質のよい野菜を市場へ提供しようと日々努力しています。「ご先祖様から受け継いだ家や田畑なんだから、津波なんかには負けていられないですよ」。今日も早朝から畑に出る大友さんです。

お帰りなさい、「緑のわかばやし」

「やっぱり若林は、こうでなくっちゃ」、そんな声が聞こえてくるような『緑の若林』が帰ってきました。

仙台東部道路の東側では、3年ぶりの田植えが行われ、地域の神社には桜などが植樹されました。

本来の姿に戻りつつある緑のじゅうたんを見て、

地域住民や訪れる人たちも自然に顔がほころんでいます。

今回は、そんな若林の沿岸部で農業を営む人や神社での植樹の様子を伝えます。

鎮守の森は、地域と共に

三本塚の稲荷神社と二木の日吉神社。どちらもその地域に住む方々にとって、日々の暮らしや、農作業の節目目にはなくてはならない存在でした。

うっそうとした杉林や満開の桜が地域の皆さんに愛されていましたが、震災後は塩害ですっかり緑を失い、社を囲んでいた木々の再生が望まれていました。両神社とも今年3月に支援団体から桜や杉の苗木が提供され、地域の力を集結して、鎮守の森が生まれ変わりました。↘



植樹作業を終え、笑顔でパチリ。三本塚町内会の皆さん

「そーれっ！」掛け声に合わせて老若男女が綱を引くと、バキバキッと音を立てて桜の老木が倒されました。三本塚の稲荷神社に集まったのは、地域の方やボランティアが約50名。塩に負けて枯れた木々を倒す人、雑草を取る人、土を運ぶ人、参加者全員が汗を流して作業が完了すると、この日を待っていたようにお稲荷さんから笑顔がこぼれたように見えました。

日吉神社でも同様の植樹が行われ、二木町内会の阿部東悦会長は「町内会としては、傾いた本殿を直すのが精一杯だったから、植樹の支援があることを聞いた時はうれしかったですね。やっぱり神社には、しーんとした森や林が必要ですから」と、喜んでいます。稲荷神社も日吉神社も、鎮守の森は地域と共に再生していきます。



写真上 ●大きく育つ姿を考えて植樹場所を決めた二木神社
写真右 ●6月、順調に育つ桜を確認する阿部会長



みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

●14日(金) 人気メニューは天ぷら!
(日辺グラウンド仮設住宅)



「日辺・デ・カフェテラス」が開催されました。スタッフが頭を悩ますのは献立です。今回は、以前好評だった天ぷらになりました。さあ、美味しい天ぷらの出来上がりです。

●15日(土) おいしさの秘訣は声かけ
(荒井7号公園仮設住宅)



スターバック・ス・コーヒーがお茶会ならぬ「コーヒー会」を開催。コーヒーを淹れるコツは「おはよー」と声をかけることだそうです。自治会長が早速実践。なんと、優しいお味になりました!

●22日(土) こっちの木はあ〜まいよ!
(山形県・東根市)



七郷中央公園仮設住宅、荒井2号公園仮設住宅、荒井7号公園仮設住宅、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの皆さんと一緒に訪れたのは、山形県東根市。支援団体のエマオが企画した、観光農園でサクランボ狩りを楽しむツアーです。

汗ばむほどの晴天の下、熟れた佐藤錦に舌鼓を打つ皆さん。「こっちの木の方が甘いよ〜」「陽の当たっている上の方がおいしいんだって」ワイワイ楽しむ皆さん。この日の一等賞は小学校の男の子。なんと、100個以上食べちゃいました! でも、お腹もこわさず無事だったのは、やっぱり若さでしょう。

●22日(土) 復活! おやじカレーだ!
(東六郷小学校)

今年も「東六郷フェスティバル」が行われた東六郷小学校(六郷中学校内)には、児童はもちろん、地域の皆さんや卒業生が沢山集まりました。小学生が企画したお化け屋敷には長い行列ができ、昔遊びのコーナーでは高齢者の方々と子どもたちが一緒に遊んでいました。モグラたたきでは、モグラ役になった子は大汗をかきながら奮闘しました。

今回は3年ぶりに「おやじカレー」が復活。地域のお父さんたちが「フェスティバルにはカレーだべ」と、仲間を集めて復活させました。味も好評で4回もおかわりする子までいましたよ。



●24日(月) アレ!? 難しいね!
(卸町東2丁目公園仮設住宅)



健康体操でチャレンジしたのが、リズムに合わせた踏み運動でした。先生のお手本を見ていると簡単にできそうですが、いざやってみると、これがなかなか難しいのでした。

●27日(木) 犬とふれあいワンダフル〜
(荒井小学校用地仮設住宅)



集会所に可愛いワンちゃんがやってきましたよ。NPO団体の皆さんがご自分の愛犬をつれて来ました。犬との接し方などのお話を聞いて、実際に犬とふれあいました。

●28日(金) 流れ着いたのは浜のシンボル
(荒浜)



荒浜にお住まいだった佐藤秀子さんの自宅敷地に自生したハマボウフウ。「津波で種が運ばれてきたんでしょうね」と秀子さん。自然のたくましさを見せつけられました。

読者から
ひとこと

●震災から間もなく二年半、これまでも多くの方に色々な支援をしていただいで感謝しています。自分たちの力でもできることも増えてきました。これからは、すぐに頼らずにできることを自分たちの手でやっていきたいです。ボランティアさんへの恩返しもしていきたいですね。
若林区/O・Sさん

●新浜に嫁いで、今八十五才です! 老人クラブは八十才で引退したの。近所のお友だちが震災で皆死んじゃって、それが一番さびしい。最近ね、夕飯を食べた後に窓から仙台新港の灯りを眺めるのが楽しみなの。実家(日辺)で見ていた灯りの景色が懐かしかったから、「いいな〜」と思って、毎晩楽しみます。
宮城野区/平山みよ子さん

●私さ、何年か前に直葬に申し込んだのね。直葬って儀礼的なものがないので、火葬だけするんだけど、今は需要が増えてるのかな? 葬儀屋の看板に値段が書いてあってさ、見たら私が頼んだ時より軽く三万円は値上がりしてて驚いたよ。
太白区/Nさん

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜移転
まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。

七月七日(日)夏祭り

内容

- 住まいの講演会・相談会
- お楽しみイベント

当日の様子



問い合わせ先
代表 宋永薫 (問い合わせがある場合は直接定例会場においてください)
定例会
第2・4金曜日19:00~
サンピア2F 会議室4

協議会主催の夏祭りが開催されました。会場のサンピア仙台には約三百人が集まり、日本FP協会宮城支部大泉義典支部長による講演や住まいの相談会に参加しました。会場の外には、石巻焼きそばや住宅メーカーのテントが並び、家族連れの長い行列ができました。午後からは、有志によるフラダンスやがんばれば援歌の踊りが披露され、楽しいひと時を過ごしました。

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って文化の再生を目指す住民有志が中心となって活動しています。

七月十四日(日)地域貢献活動

内容

- 深沼海岸の清掃

当日の様子



問い合わせ先
代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議
毎週月曜日19:00~
荒井小学校用地仮設住宅集会所

夏を目前にした深沼海岸は、週末になると花火の残骸やパーベキューのごみが散乱しています。会のメンバーや地元有志、ボランティアなど約三十名が参加して、海岸付近のごみを集めたり、階段に溜まった砂を除去しました。清掃活動後は、レンガの釜で焼いたピザが振る舞われ、現地で開催中の「深沼のおもいで写真展」を見て、談笑が絶えませんでした。

荒浜復興公営住宅
(戸建)推進協議会

戸建の復興公営住宅を希望する方々の勉強会です。

七月八日(月)見学会・意見交換会

内容

- 戸建公営住宅建築予定地を見学
- 市担当者との意見交換

当日の様子



問い合わせ先
代表 最知幸子 080-3194-8439
定例会議
第2・4月曜日13:30~
荒井小学校用地仮設住宅集会所

戸建の復興公営住宅建設が予定されている、荒井東地区と七郷地区の現地を市の担当者の案内で見学しました。参加者十数名は宅地造成工事の現地を見た後、意見交換会を行い、一人暮らしの方に戸建公営住宅への入居を認めてほしい、などの意見が出されました。市からは、安全安心な一人暮らしを考慮した上で、集合住宅を勧めていることが説明されました。

東六郷移転推進協議会

東六郷の浸水区域から六郷地区への集団移転に向けて活動しています。

七月十四日(日)定例会議

内容

- 土地売買契約の報告
- 移転地開発事業の今後について

当日の様子



問い合わせ先
代表 落合義光 090-4882-3368
定例会議
随時開催
日辺グラウンド仮設住宅談話室

落合代表より移転先地権者との土地売買契約について、手付金の支払いが済んだことが報告され、メンバーが土地売買契約書への署名・捺印を行いました。また、移転地の開発事業施工業務の委託先については、隣接地に移転を計画する他地区移転者団体と同じ委託業者とし、今後の開発についても同移転者団体とともに協議し、進めていくことが確認されました。

※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください

続ける支援

リルーツの農地再生支援

若林区沿岸部で、津波被害に遭った農地の再生に取り組み地元大学生主体のボランティアグループ「リルーツ」は、今なお現場で汗する団体の一つです。コンセプトは「復旧から復興へ、そして地域おこしまで」。二〇一一年四月の始動以来、盆や正月を除き、ほぼ休みなく活動しています。

農地再生の実際の作業は極めて地味です。耕作再開の妨げとなる石やガラス片などを掘り出しては拾い、雑草を刈る。被災農地の広大さを思うと、気が遠くなる作業です。全国延べ二十万人以上のボランティアの力を結集し、これまで地元農家三百五十件以上のSOSに応えてきました。

「リルーツがいなかったら、ここまで来るのにおと二年はかかっていった」というのが、地元農家の評価です。



ボランティアの作業風景。この日はネギ畑の雑草をきれいに取り除きました

す。人海戦術のマンパワーはもちろん、常に相手の立場を考えた支援は、復興に挑む農家の確かな支えとなってきました。

支援は「農地を蘇らせて終わり」ではありません。再開した農地での田植え体験イベントをはじめ、サツマイモやヒマワリの栽培、さらには農家が育てた復興野菜を、仙台朝市に置くアンテナショップ「りるまあと」で直売もしています。

「行政施策はどうしてもハード面に偏りがちです。でも、それだけでは農地は蘇っても農村コミュニティは減ってしまう。だから農業を支える消費者、農家を応援するファンを

育てて、つながっていきなさいです」。唯一の社会人で、約五十人の大学生メンバーを率いる広瀬剛史代表の願いです。

従来、農業や農村からは遠い存在と思っていた若者の献身的な働きを地元は喜んでいきます。リルーツの協力で畑作を再開できた若林区三本塚の佐藤勝五郎さんは「若い人の頑張りに心底感動した。自分もこのままでは終われないと思ったわけよ」と笑います。卒寿を過ぎてても何のその。

今春からはリルーツの市民参加企画「さつまいもプロジェクト」で栽培指導役を務め、ひ孫の年齢の離れた大学生らと一緒に



ボランティアハウス前で、リルーツの取り組みについて語る代表の広瀬さん

東日本大震災から二年。今、さまざまなかたちで支援が続いている方々がいまいます。地域に根づいて支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。被災地で取材を続ける情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

に地域おこしに励んでいます。広瀬さんは言います。「目先の必要なことを手当するボランティアがいれば、先々を考えて動く支援者もいます。一方で、被災した人の中にも『地域をどうするか』を発想できる人もいます。支援する側もされる側も今後一層、質や姿勢が問われますね」。復興のこれからを考える上で、実践者の言葉は重くしりと響きます。

支援内容
農地再生(津波浸水農地のがれき除去)、農作業手伝いなど
支援を希望する方は下記へお問い合わせください。

問い合わせ
一般社団法人 ReRoots(リルーツ)
TEL 022-762-8211

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

企画展「なつかし仙台3 いつか見た街・人・暮らし」

仙台地方の人々の街・人・暮らしを中心に、明治・大正・昭和はじめ・戦後・現代に至る写真や絵はがきなどの映像資料を取り上げます。8月中は、震災直後から定点観測されたテーマ展示も行います。

対象 どなたでも入場できます

時 開催中(11月4日(月・祝)まで)9:00~16:45

※月曜日(祝日を除く)、休日の翌日(土・日曜日、祝日を除く)、第4木曜日は休館

場所 仙台市歴史民俗資料館

入館料 一般・大学生200円、高校生150円、小・中学生100円

【館内テーマ展示「3.11キヲクのキロク、そしてイマ。」ポスター展(NPO法人20世紀アーカイブ仙台)

東日本大震災直後に撮影した写真と定点観測された現在の写真を紹介します。

時 開催中(8月25日(日)まで)9:00~16:45

【館内テーマ展示

写真家 庄子喜隆の世界「仙台市電が走っていたころ」

時 8月31日(土)~9月23日(月・祝)9:00~16:45

昭和50年代前後の昭和の仙台の街を市電とともにかえりみえます。

問 022-295-3956 仙台市歴史民俗資料館

津波で流出した写真などをお返しします

東日本大震災の津波被害地域(宮城野区・若林区)でのがれき処理作業中に回収された写真、アルバム、賞状など思い出の品を洗浄しました。期間中に品物の展示・返却を行います。

対象 どなたでも入場できます

時 8月15日(木)~25日(日)10:00~17:00 ※19日(月)は休館

場所 宮城野区中央市民センター体育館(宮城野区五輪2-12-70 宮城野区役所隣)

主催 震災復興ボランティア団体おもいでかえる、仙台市

問 022-214-3108 仙台市消防局防災企画課、減災推進課

七郷を語り継ぐ「語り部」の養成講座

七郷市民センターでは、荒浜を含めた七郷地域の歩みを次世代へ語り継ぎ、地域の特色や魅力を発信できる「語り部」の養成講座「未来への伝言 七郷を語り継ぐ」を開催します。

対象・定員 成人20名(抽選)

時 9月14日(土)10:00~12:00

※今年度はおおむね月1回の連続講座を予定しています

場所 七郷市民センター2階 第1研修室

申込方法 講座名・住所・氏名・連絡先を記入し復返はがきかFAXを送付、またははがきを窓口へ持参してください。8月27日(火)必着

問 〒984-0032 若林区荒井字堀添65-5

七郷市民センター 022-288-8700 FAX022-288-2340

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
らくらくリフレッシュ in 宮城野	宮城野区のみなし仮設にお住まいの方	8月7日(水)	10:00~12:00	宮城野区中央市民センター	無理なく、楽しくできる健康運動	要(電話)	支えあいセンターみやぎの 022-292-0990
プラザサロン	福祉プラザ付近にお住まいの方	8月21日(水)	13:00~15:00	福祉プラザ9階大広間2	風呂敷包みの会(包み方のアレンジを楽しみます)	要(電話)	支えあいセンターあおば 022-217-7234
納涼支えあい夏まつり	若林区のみなし仮設にお住まいの方	8月22日(木)	10:00~12:00	若林区中央市民センター別棟	夏祭り(水風船・バルーンアート・輪投げ・模擬店他盛りだくさん)	要(はがき案内による電話申込)	支えあいセンターわかばやし 022-781-0559
ほのほの中央サロン	太白区のみなし仮設にお住まいの方	8月24日(土)	10:00~12:00	太白区中央市民センター	落語と小唄(日本笑い学会 楽家笑遊さん)	要(電話)	支えあいセンターたいはく 022-217-7234
泉中央サロン	泉区のみなし仮設にお住まいの方	8月28日(水)	10:00~12:00	泉区中央市民センター	風呂敷包みの会(包み方のアレンジを楽しみます)	不要	支えあいセンターいずみ 022-772-5755

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

健康相談などのお知らせ

電話：022-282-1111(若林区家庭健康課・障害高齢課)

相談名	時	時間	会場	内容	担当	問い合わせ
母と子の健康相談	8月6日(火)★	9:30~10:30	七郷保健センター	育児の心配や母と子の健康についての相談(保健センターでの歯科相談は隔月でおこなっています)	保健師・栄養士 ★の日は歯科衛生士もおります	家庭健康課内線6772
	8月23日(金)	13:30~14:30	若林区役所3階			
	9月6日(金)★	9:30~10:30	六郷保健センター			
子どものこころの相談室	8月27日(火)	13:30~16:00 予約制	若林区役所3階	震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約)	児童精神科医または臨床心理士	
健康づくり講話	8月28日(水)	13:30~14:30	若林区役所3階健康教育室	「談笑音楽」~笑って語って音楽を聴いて健康づくり~	産業カウンセラー神尾総一郎氏	家庭健康課内線6785
健康づくり相談		14:30~15:30	若林区役所3階	健康相談(要予約)	保健師、栄養士、歯科衛生士	
こころの健康相談	8月15日(木) 8月23日(金)★ 9月5日(木)	13:30~16:30 ★の日は9:00~12:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談(要予約)	精神科医師、精神保健福祉相談員、保健師など	障害高齢課内線6752
震災こころの相談	随時(土日祝日除く)	8:30~17:00	若林区役所1階窓口など	震災によるストレスやこころの相談		
高齢者総合相談	随時(土日祝日除く)	8:30~17:00	若林区役所1階窓口	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	
認知症の介護講座と相談会	8月23日(金)	講座: 13:30~14:30 相談会: 14:30~16:00	若林区役所3階健康教育室	講座:医師講話「認知症の病気の理解」 相談会	講座:医師	障害高齢課内線6307

徳照寺 住職

佐藤 和丸

ある老人クラブの方々にお願ひして、次の件
に関して統計を取って見た時の意外な結果のお
話です。

今、自分が持つてゐる大切な財産と思へるもの
を全部書き出してもらひ、次に消しゴムを各
自にお渡しして、本当は失ひたくないが無くて
も、まっ、生きて行けるといふもの、ずっと所有
してゐたいけど失つても仕方ないものを次々に
消してもらひ、結局最後に残つたのが全員共通
して、夫、妻、子、孫、肉親、友人といふ人間を
意味するものだけだつたさうです。

この統計を取つた人の結論は「人間は人無くし
ては生きて行けない存在である」といふことでし
た。さう遠くない将来、核戦争が勃発した時に
自分だけ生き残らうとして、強固な核シエルト
を自宅の地下に作つたといふ人がゐると聞いた
ことがありますが、想像してみても下さい。世界
中の人々が全員核の犠牲になり壊滅したあとの
世界に、ポツンと独り地上に立ち尽くしてゐる
様相を。恐らくこの人は生きて行けないでせう。
こんなにも人間好きの私達なのに、一方では
生きて行けなくなるほどの苦悩もまた、この人
間との関係から生じるのですもんねえ。

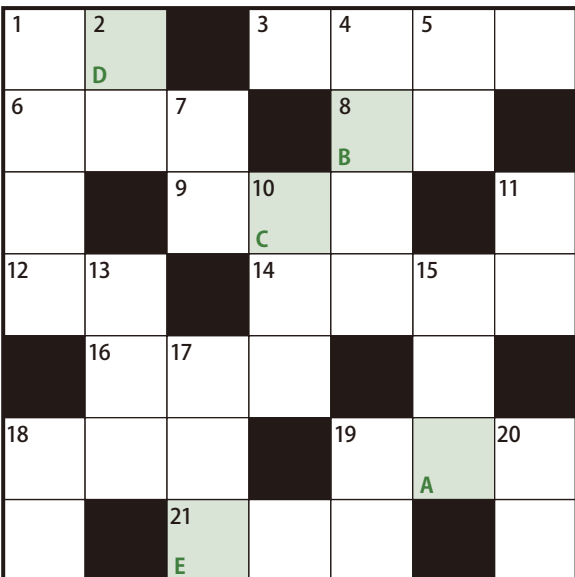
佐藤和丸(さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

クロスワードパズル

出題
石田竹久

こたえ



タテのカギ

- ①8月20日、光と水と音の祭典、「広瀬川〇〇〇〇流し」が開催されます
- ②浜辺を歩くと踏みしめず
- ④8月15、16日、瑞巖寺や五大堂周辺などで、「〇〇〇〇流灯会 海の盆」が開かれます
- ⑤鳴瀬川の通る加美町には、〇〇の里公園や〇〇の里物産館があります
- ⑦あわれみ、いつくしむ心
- ⑩〇〇〇骨とは、一家を支えていくもの
- ⑪定義山に行くと、羽衣をまとつたような「天女の〇〇」が見られます
- ⑬武芸や学問などの先生
- ⑮力士の名前
- ⑰運転中のご法度のひとつ。まっすぐ前を向きましょう
- ⑱石巻市の離島でもついに海開き、〇〇白浜海水浴場
- ⑲〇〇が付くといえば、貫禄が出ること
- ⑳仙台トラストタワーをはじめ、仙台市には東北地方でも屈指の高層〇〇が並びます

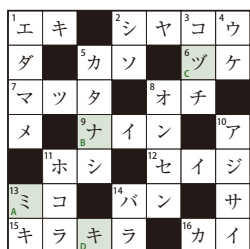
ヨコのカギ

- ①投げたコインの裏表で物事を決定
- ③「山間」を「さんかん」とは読まずに…
- ⑥首の後ろの部分
- ⑧夏の直前はジトジトとこの時期でした
- ⑨仙台市が発祥の地とされる〇〇〇中華。暑い季節には手づくりされる家庭が多いことでしょう
- ⑫仙台市においても、松阪や神戸などと並んで高級ブランドの肉が
- ⑭ことわざ。三つ子の〇〇〇〇百まで
- ⑯この6月より、仙台空港と〇〇〇のホノルル国際空港を結ぶ直行便が就航しています
- ⑰覚えて頭に入れること
- ⑲楽天イーグルスの8月25日までのホームゲームでは、5回裏終了後に約1分間、〇〇〇が打ち上がります
- ⑳奥州の高野山といわれる、登米市の〇〇〇寺では、8月15、16日に「〇〇〇尊大祭」が行なわれます

前回のこたえ

A ミ B ナ C ツ D キ

でした。



今年も貞山掘の灯籠流しが開催されます。日時は8月24日(土)13:00~15:00の予定です。当日は混雑が予想されますので、お車など乗り合わせてお出かけください。(きうち)

表紙でご紹介した「おにぎり茶屋 ちかちゃん」。おにぎりの美味しさは言うまでもないのですが、物販している手づくりみそがまた絶品。少し辛めで、東北人好みの懐かしいお味です! (さとう)

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越し後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL : 022-390-5755
FAX : 022-390-5756 e-mail : kawara@mmmm.or.jp